

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】令和4年12月26日(2022.12.26)

【国際公開番号】WO2018/148566

【公表番号】特表2020-507328(P2020-507328A)

【公表日】令和2年3月12日(2020.3.12)

【出願番号】特願2019-543761(P2019-543761)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/62(2006.01)

A 6 1 K 39/395(2006.01)

A 6 1 P 35/00(2006.01)

C 1 2 N 15/13(2006.01)

C 1 2 P 21/08(2006.01)

C 0 7 K 16/28(2006.01)

C 0 7 K 16/46(2006.01)

A 6 1 K 38/17(2006.01)

A 6 1 K 35/76(2015.01)

10

【F I】

C 1 2 N 15/62 Z

A 6 1 K 39/395 D Z N A

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 P 35/00

C 1 2 N 15/13

C 1 2 P 21/08

C 0 7 K 16/28

C 0 7 K 16/46

A 6 1 K 38/17

A 6 1 K 35/76

20

30

【誤訳訂正書】

【提出日】令和4年12月8日(2022.12.8)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0189

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0189】

実施例9： 多重特異性結合性タンパク質はNK細胞を活性化する

初代ヒトNK細胞は、標的を発現するヒトがん細胞株との共培養においてTriNKETによって活性化される

初代ヒトNK細胞をBCMA陽性MM.1S骨髄腫細胞と共培養することにより、初代ヒトNK細胞のTriNKET媒介性活性化がもたらされた。BCMAを標的とするTriNKET(たとえばC26-TriNKET-BCMA及びF04-TriNKET-BCMA)は、CD107a脱顆粒及びIFN- γ サイトカイン産生の増大によって示されるように、MM.1S骨髄腫細胞と共培養されたヒトNK細胞の活性化をもたらした(図32)。アイソタイプTriNKETと比較して、BCMAを標的とするTriNKET(たとえばA44-TriNKET-BCMA、A49-TriNKET-BCMA、C26-TriNKET-BCMA、F04-TriNKET-BCMA、F43-TriNKET-BCMA、F43-TriNKET-BCMA、F47-TriNKET-BCMA、及びF63-TriNKET-BCMA)は、増大したNK細胞活性を示した(図32)。

40

50